

【学術情報の発信】

国連における デジタルリポジトリ事業

ボヤン・グロッツダニツク

●はじめに

ウェブやSNSなどのニューメディアの発現は、国際連合（以下、国連）のような巨大組織における情報管理・発信の在り方を問い直すことになった。国連のダグ・ハマーショルド図書館（以下、DHL）は、国連情報のワンストップサービスの二〇一五年公開を目指し、デジタルリポジトリ構築の準備を進めている。

●国連組織について

国連は、複数の主要機構とその他の機関で構成されている。主要機構には総会、安全保障理事会、経済社会理事会、事務局、国際司法裁判所がある。

国連全組織の総称としての国連システムには、全部でおよそ四〇〇のさまざまな機関があり、これらの機関は基金と計画、補助機

関、地域委員会、およびその他の関連機関として組織されている。このように国連システムとは、独立した権限や責任、予算を持つ機関の連合体といえる。

国連システムの活動分野は、平和と安全保障、軍縮、人権、文化、観光および輸送の分野から、通商やマクロ経済学まで、多岐にわたり、それぞれの分野で国連は、政策的な取り組みを行っている。

広範な活動を実施する国連にとって、情報管理を含む組織間の連携は、重要な課題となっている。グローバルな情報管理を適切に行えば、国連全体の取り組みへの理解が深化し、各機関が相互に事業の重複を防ぐことができる。

●国連における情報管理の現状

国連が発信する情報は、国連の

取り組みにおける主要な成果のひとつである。具体的には、国家機関や学術機関、経済界や一般向けに発表される政策や基準、文書、決議案などがある。発信形態も多様で、プレスリリースや公文書をはじめ、さまざまな読者向けの出版物、映像および音声記録などがある。最近では、ウェブサイトやウェブベースのシステムを通して発信されることが増えてきている。

その代表は国連のウェブサイト (<http://www.un.org>) とオンライン全文閲覧・検索ができる国連公文書システム (ODS、<http://documents.un.org>) であり、国連情報は六つの公用語（英語、ロシア語、フランス語、アラビア語、中国語、スペイン語）で提供される。また、この二つの公式サービスだけでなく、国連の各機関もそれぞれのウェブサイトで

ソーシャルメディアを使って、豊富な情報を幅広いユーザー層に向けて効果的に発信している。その結果、現在では、情報発信者である国連諸組織とユーザーとの間には多対多の関係が成立しており、このような発信方式の利点として適切な国連情報を簡単かつ迅速にユーザーに届けることができる。

●情報管理の課題

他方、国連システム全体をみると、ウェブサイトやソーシャルメディアのアカウントは続々と増え、さまざまな機会・目的のために作られたコレクションやオンラインのシステムも次々と提供されてきた。国連の事業を考えると、この先もますます増えそうな勢いである。色々ありすぎて、もはや国連の職員でさえ、情報の全体像は容易には把握できない。ましてや、外部のユーザーにとっては、複雑でわかりにくいものになってしまっている。

これまでのところ、国連では、この情報管理上の問題を適切に解決するための政策、手続き、ガバナンスの策定は後手に回り、適切な対処が迅速に実施できていない。

具体的な懸案事項としては、以下が挙げられる。(1)「デジタルコレクション」を適切に分類するための総体的な体系がないこと、(2)情報をみつけるのが難しいこと、(3)情報過多に陥っていること、(4)整合性のあるコンテンツを発信するための統一基準がないこと、(5)採用している情報技術に不均衡があること、(6)類似するテーマの文書を関連付けられないこと、(7)真正性を保証する仕組みがないこと、(8)デジタル情報の長期保存の問題に対応できていないこと、(9)新たなニーズへの対応に時間がかかりすぎる、(10)ユーザーに対するサポートの欠如。

これらの事項に対処するには、職員の研修や専門家の採用等、コストがかかりすぎるので、各機関がそれぞれ実施するのではなく、集中的に担当する中核機関があったほうが良い。それによって、情報を一カ所で適切に管理することができれば、重複した取り組みを避け、効率的な国連情報の管理が可能となる。

●国連事務局の情報および知識管理における図書館の役割

国連事務局に所在するDHL

は、国連本部広報局の機関である。DHLでは、国連発行文書、出版物その他のコンテンツの収集、管理、普及、保存に取り組んでいる。

国連情報を世界レベルで組織・保存する権限とそれを行ってきた歴史や文化を持つ組織は、今のところ国連事務局内には他にない。DHLは、発足以来一貫して国連の情報資産に主題やその他の書誌的記述を適切に付与し、国連が蓄えた「組織としての知識」を管理・保存するスキルを維持してきた。

また、DHLのレファレンスサービスには、オンラインの検索エンジンでは解決できなかった問い合わせが頻繁に寄せられるが、大抵のものは解決してきた。DHLならば、その情報管理能力や、蔵書・購読資料、他館との連携関係を活かして質の高い調査が可能なのである。

最後に、近年、グローバルな情報ニーズへの対応が可能な、信頼性の高いデジタルリポジトリが国連には必要である、という認識が高まってきた。これを受けて、DHLの政策と活動計画は改定され、質の高い情報管理サービスを

提供し、これらのニーズに応えるデジタルリポジトリを構築することとなった。

●デジタルリポジトリの実現

デジタルリポジトリは比較的新しいタイプの情報管理システムであり、学術機関やその図書館をはじめ、さまざまな機関のコンテンツを効果的に公開、管理、保存したいというニーズに対応するべく作られた。

現在、DHLは国連主要機構のデジタルリポジトリ構築に向けDSpace 4.0をはじめ適切なりポジトリ用アプリケーションを試行している。DHLのデジタルリポジトリは、国連のライブラリアンや提携部門（部署）がデジタルコンテンツを適切に管理するために必要な多くの手続きや手段、ワークフロー、基準、ツールを盛り込む予定である。さらにデジタルリポジトリは、情報管理政策が確実に実行に移されるよう、できる限り作業を自動化することも考えている。このようにDHLはデジタルリポジトリ上で体系的に組み込まれた機能を構築することによって、デジタルリポジトリをユーザーにも提携部門（部署）にも使

いやすいものにしよと考えている。また、コンテンツの検証、相互の関連付け、保存を適切に行い、可視性の高いものに仕上げることで、ユーザーからの信頼と高評価を勝ち得ることを目標としている。

このデジタルリポジトリは、以下の機能を備えたものになる。

(1)情報共有 コンテンツやメタデータを国連のすべての公用語で提供する。デジタルリポジトリは、メタデータおよびコンテンツをハブスティングによって他のシステムと共有する。デジタルリポジトリの目録は、Google Scholarを通して公開し、登録ユーザー向けの配信サービスも提供する。さらには、広く使われているソーシャルメディア・プラットフォーム（例えばFacebook, Twitter, Google+など）を使って、デジタルコンテンツの情報をより広範に共有する手段も実現する。ウェブコンテンツ管理システム（Drupalなど）と連携することで、デジタルコレクションのブラウジング機能を提供するほか、適切な並べ替えやグルーピングが可能な柔軟性のあるリストも提供する。

(2) 情報の収集と管理 デジタルリ

ポジトリは、リポジトリへの新しい資料のデポジットを促して収集を容易にする手段を提供する。具体的には、既存のデジタルコンテンツは、バッチ処理によりほぼ自動で収集することができるようになる。またDHLは収集された資料について、主題やその他のメタデータを付与してより詳しく記述する。これらの専門的な図書館サービスによって、コンテンツの品質や評判はさらに向上し、このことがまた、コンテンツ作成者にとってDHLへコンテンツを提供するインセンティブとなること

期待される。

(3) 情報分析 情報が誰によって何

の目的で使用されるのか、そしてその情報がどう役立つのかを知ることは、情報提供者にとって重要なことである。いわゆるウェブ統計では、このような情報は通常は知り得ない。しかしデジタルリポジトリでは、簡単に属性を特定できる機能を実装することで、インターネットサービスを使ってその情報がどのように使われているのかを効率よく知ることができるように

する。またデジタルリポジトリはコンテンツの増加を測定し、作成機関がどれほどコンテンツを提供しているかを報告することも目指す。

(4) 情報セキュリティ ライセン

シングや著作権の管理は、情報の使われ方を管理するとともに、発信されたコンテンツの適切な使用や再利用の仕方をユーザーに伝えるためにも重要である。さらに、アクセス禁止期間や、アクセス制御の仕組みを実装することによって、情報のライフサイクルの各段階における、デジタル情報へのアクセスにとまらざるままな問題に対応する。

(5) 情報利用 デジタルリポジトリ

では、メタデータを追加することで、さまざまなコンテンツ間のテーマなどの類似性を示すことができる。これはデジタルリポジトリの大きなメリットのひとつである。デジタルリポジトリでは、コンセプトや問題点、提案・承認された解決策などの理解を助けるため、関連する情報をできるだけまとめて提供することを目指す。また、デジタルリポジトリは管理する文書に対して電子署名を施すことで、

国連のデジタル情報の真正性をユーザーに保証する。

(6) 情報の保存 作成された情報を後世に保存することは、図書館の重要な役割のひとつである。

デジタルリポジトリでは、保存用データフォーマット (pdf, xml など) への変換や、デジタルデータの誤り検出に使われるチェックサムの処理など、多くのデジタル情報の長期保存のためのサービスを提供する。デジタルリポジトリにあるすべてのアイテムにはパーマネントリンクが与えられ、それぞれが適切なコレクションに分類される。これにより、ユーザーにコンテンツの高い信頼性と必要な情報への確実なアクセスとを保証する。

● 結論

ウェブサイトやその他のオンラインによる発信技術の急激な普及・拡大は、DHLが提供するサービスの評価を脅かすかにみえたので、DHLは自らの役割を見直し、提携機関やユーザーに役立つようにと長年、試行錯誤を重ねてきた。しかし、検索エンジンやウェブサイトには、情報管理の面

で弱点があることもわかってきた。そこでDHLは、問題の露呈を好機と捉え、デジタルリポジトリの実現によってこの難題に取り組むことになった。デジタルリポジトリには、国連における情報管理をより良くする多くの図書館サービスが盛り込まれる予定だ。DHLは国連の情報環境に適応するべく、従来のサービスを時宜に合ったものにするための作業を行っているところである。

DHLは今後も、理解しやすく、適切にブランド化され、信頼しうるサービスおよびコンテンツを提供し、既存のコンテンツ管理システムやウェブサイト、その他の情報発信システムを補完することが求められている。

国連システムのより詳しい情報については、<http://www.un.org> を参照。

現在の国連の組織機構については、<http://www.un.org/en/aboutun/structure/index.shtml> を参照。

(Bojan Grozdanic / デジタル知識コーディネータ)